

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成29年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機 関 名	名古屋大学	整理番号	S02
プログラム名称	「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム		
プログラム責任者	高橋 雅英	プログラムコーディネーター	東村 博子
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業では、アジアにおいて個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態の実現に資するグローバルに活躍する女性リーダーの育成、男女共同参画の重要性を認識し、実践する男性リーダーの育成を目指すプログラムを展開している。総長のイニシアチブとガバナンスの下に、参加する教員が有機的に連携し教育に取り組んでいる。以下、現地視察で得た情報を基に報告する。 1.計画は着実に実施されており、所要の体制整備等が確実に行われている。 2.実施計画においては、遅延は認められず概ね順調に実施されている。 3.多くの国際的な取組が積極的に実施されており、アジアにおける well-being を実現に資するグローバル人材の養成が期待される。 4.コースワークについては6つのコア能力を定め、必修独自科目とキャリア支援のための措置を導入し、相互理解の上に講義を行っている。 5.教員、学外の産業界のメンター等の指導が整備されており、多様な進路希望に応えられる指導・支援体制が構築・運営されている。 6.大学全体の中長期の改革構想の中で、総長を中心としたマネジメント体制が構築されており、男女共同参画センターが本プログラムから派生し、内製化が実現されている。 7.女性リーダー育成支援事業（基金）が創設されたが、規模は十分でなく、今後の拡大が必要である。 8.優秀な留学生、日本人学生を確保するため、本プログラムの広報を行い、意欲ある社会人学生の獲得にも成功している。Well-being, gender discrimination, economic inequityなど、社会の構造問題として捉える深い視点も確実に醸成されている。 9.「企業メンターバンク」の創設や、常に中間評価時の参考意見への迅速な対応がなされている。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 本プログラムが将来的な成功を収めるためには、内製化を進めなければならないという認識のもと、関係教職員が一致団結して努力していることは評価できる。しかし、支援期間終了後の内製化には、更なる人的、組織的、かつ財政的担保が必要である。そのため、まずプログラムが自律的に稼働するための財政基盤を確固たるものとして確立されたい。同時に、プログラムが掲げる学問体系を構築し、学位プログラムとして確立する必要がある。現在の教育実践を見ると、全ての学生に共通なリーダー論やキャリア支援等のプログラムがある一方、社会の公平性や格差等を学問として深化されるべき学術領域があるように拝察できる。即ち大学院レベルでの教養教育に相当するキャリア開発の部分と、学問領域として極めて専門性の高いフィールド学術分野に整理し、学位プログラムとして確立させてほしい。さらに、それを担う研究所等の構想の可能性も検討願いたい。 			